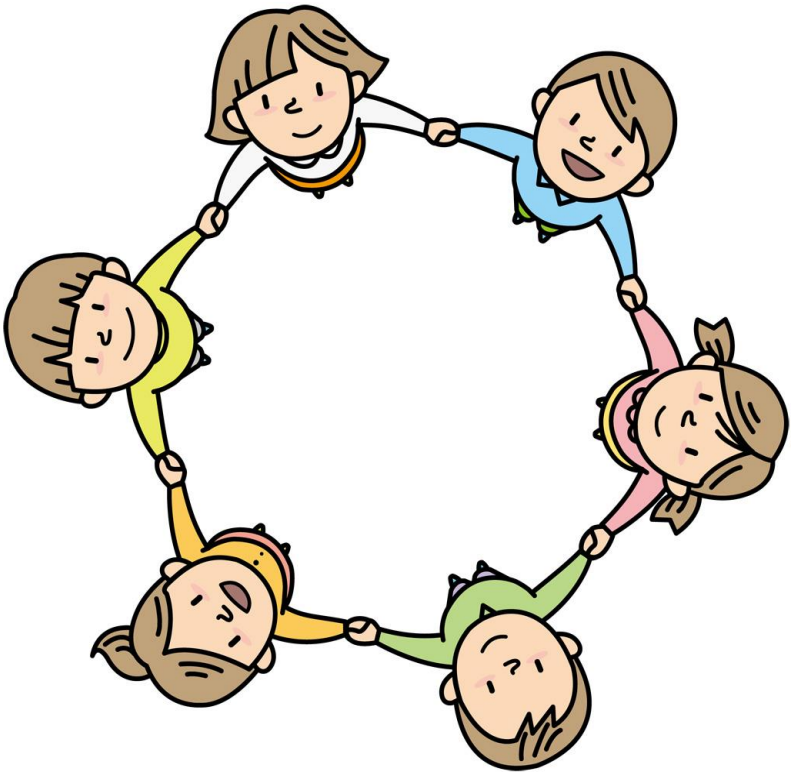
平成２８年度
会津若松市男女平等に関する作文コンクール

入選作品集



会津若松市

目　次

平成28年度「男女平等に関する作文コンクール」の審査総評

審査委員長　会津若松市男女共同参画審議会　会長　渡辺　一弘

●小学生低学年の部

最優秀賞　家ぞくで時たんプレー　永和小学校　二年　江川（えがわ）凛音（りのん）さん……1

●小学生高学年の部

最優秀賞　自分らしさを大切に　会津若松　ザベリオ学園小学校　五年　安部（あべ）美沙希（みさき）さん……2

最優秀賞　男女平等とは　行仁小学校　六年　佐藤（さとう）文香（ふみか）さん……4

優秀賞　男女平等な社会へ　城西小学校　五年　丹（たん）隆之助（りゅうのすけ）さん……5

優秀賞　男女の数は関係ない　行仁小学校　四年　星（ほし）祐輝（ゆうき）さん……7

優秀賞　恐そうな男子　松長小学校　六年　渡部（わたなべ）星来（せいら）さん……9

●中学生の部

最優秀賞　「主夫」と「主婦」　会津学鳳中学校　二年　落合（おちあい）勇斗（ゆうと）さん……11

優秀賞　男女平等とは？　北会津中学校　二年　樋田（といだ）遥（はるか）さん……13

※同賞については氏名５０音順です。
※公表の承諾を得た作品を掲載しています。
※各作品の講評は、選考審査を行っていただきました会津若松市男女共同参画審議会委員の皆様によるものです。

平成28年度　会津若松市「男女平等に関する作文コンクール」の審査総評

審査委員長　会津若松市男女共同参画審議会
会長　渡辺　一弘

平成11年に、男女共同参画社会基本法が制定されました。この法律は、「男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会を形成すること」と定義され、男女共同参画社会の実現のため作られました。これを受けて、会津若松市では、平成12年に「男女共同参画都市宣言」をし、これまで様々な取組を行ってきました。その一つに、市内の小中学生を対象とした「男女平等に関する作文コンクール」があります。

今年の作文コンクールには、小中学生合計で243作品の応募があり、それらの中から、最優秀賞4作品（小学生低学年1、小学生高学年2、中学生1）、優秀賞5作品（小学生低学年1、小学生高学年3、中学生1）が選ばれました。例年と同様に、「家族」「家庭」等をテーマにした作品が多かったのですが、今年の特徴としては、「男女平等」自体を、子どもたちなりに、いかに考えるのか、いかにとらえるのか、といった視点のものが多かった様に感じました。さらに、「男らしさ」「女らしさ」という点だけではなく、「自分らしさ」「人間らしさ」という点に言及している作品もいくつか見られました。

子どもたちには、この作文コンクールをきっかけに、是非、固定化した男女の性別役割の考え方から脱却し、男女平等とはどういうことか、自分らしさ、人間らしさとはどういうことか、の意識をもち、年齢、人種、障がい等々の、差別の無い社会の実現に向けて、日々の生活を送って欲しいと思います。また大人たちは、これらの子どもたちをサポートすべく、自分たち自身が、伝統的な男女の性別役割の考え方から、新たな男女共同参画社会の一員として、いかに生きていくか、ということを、子どもたちに示すことが必要になってくるでしょう。

優賞
最秀

家ぞくで時たんプレー

永和小学校　二年　　江川　凛音

「やったー。今日は、からあげだ。」

わたしは、お父さんが作るからあげが大すきです。お父さんのからあげは、にんにく、しょうが、しょうゆ、おさけ、みりん、とりがらで下あじをつけて、こむぎこをつけてから、あぶらであげます。こうばしいしょうゆの、あつあつのからあげをつまみぐいするのが、夕しょくつくりのアシスタントをするごほうびです。

わたしのお父さんは、大きなせいぞう工場ではたらいています。いつもきまった時間におわるので、早く帰ってきます。お母さんは、おみせをかねたかいしゃではたらいていて、おきゃくさんがきていると、おそくなることがあります。それに、中学生のおにいちゃんをぶかつがおわるまでまっていて、おにいちゃんといっしょに帰ってくるのでおそいのです。

そのためわがやでは、お父さんが夕ごはんを作り、わたしはテーブルをふいたりおはしやおさらをつけたりするアシスタントをしています。

お母さんは帰ってくるとすぐお父さんの手つだいをします。おにいちゃんはおふろそうじをします。お父さんやおにいちゃんは、せんたくやそうじアイロンがけなどもよくします。わたしもそうじきをかけたり、ゴミ出しをしたりします。

家ぞくみんなでかじをすれば、ゆっくりしょくじをしたりのんびりテレビを見たり、今日のできごとを話したりする時間がたくさんできます。

男女かんけいなく家ぞくみんなでかじをする、「時たんプレー」が、わがやは大のとくいです。

わたしもいつか、お父さんのあじをこえる、おいしいからあげを作れるようになって、家ぞくみんなで楽しくたべることを目ひょうに、これからもアシスタントをがんばりたいと思います。

講評

家族のみなさんが「男女関係なく」、自分のできる家事をぶんたんしながら行う「時たんプレー」が、いきいきと書けていました。そしてこの経験を大人になった時、社会でもいかしてほしいと思います。

最優秀賞

自分らしさを大切に

会津若松ザベリオ学園小学校　五年　安部　美沙希

「男女平等」と漢字が並べられると、それが少し難しいことのように思う。でもよく考えてみると「男女平等」について考える機会は私たちの身の回りにある。

私は時々、お母さんの職場に連れて行ってもらうことがある。そこに行くと、男の人も女の人も関係なくお互いに助け合いながらお仕事をしている。私にとってそこはあこがれの場所だ。

でも現実の社会に目を向けると、男の人は仕事だけをして、女の人が家事をするのがふつうみたいに思われることが多いと思う。男の人が女の人みたいに家事や育児をすると、それだけで「イクメン」と言われたりほめられたりするのに、女の人はそういうことをするのが当たり前だと思っている人が多い。

朝のテレビドラマで、主人公の女の人が社長だと分かった時、それだけでおどろかれたり、「女の社長だから、最初から期待はしていなかった」などと言われたりしていた。今から何十年も昔はそんなことがあったのだとびっくりした。でも主人公はそんな差別や苦労にも負けずに家族や職場の人たちと一緒に力を合わせて女の人たちのために「豊かなくらし」を実現する雑誌を作り、夢をかなえていった。

今は女の人が大学の学長をしていたり、社長をしていたりすることもよくあるけれど、昔はそうではなかったのだと思う。自然にこうなったのではなくて、男女平等のために立ち上がって行動した人たちがいたからだと気付いた。

会津には「ばく末のジャンヌ・ダルク」と呼ばれた八重さんがいる。八重さんは、その時代ではめずらしく、「男らしい」女の人で、同時に自分らしさを大切にしていた人だと思う。結婚した新島襄はレディーファーストという習慣が身についていたので、二人にとってはそれが当たり前のことだったけど、世間からは厳しい目を向けられたりすることもあったようだ。でもそんな中でも二人は負けずに、お互いの個性を出して「自分たちらしさ」を大切にしていたのだと思う。

「男女平等」ということについて考えると、「自分らしさ」を尊重することが大切だと思う。でも、「男らしさ」「女らしさ」の個性のそれぞれのいいところを活かしながら生活することが一番大切だということに気がついた。女の人にしかできないこと、男の人にしかできないことはやっぱりある。そんな中で、お互いにそれぞれのいいところや個性を出しながら助け合っていくことが必要で、一番大切なことだと思う。

講評

男女平等の社会を実現するためには、性別にとらわれず、それぞれの個性を理解しながら協力し合っていくことが大切である旨、自分の考えがまとめられている大変良い作文であると思います。

最優秀賞

男女平等とは

行仁小学校　六年　佐藤　文香

「男女平等って、何だろう？」これが、私が男女平等について最初に思った事でした。意味を調べてみると、男女の性別による差別をうけないという意味でした。この言葉は、男は男らしく、女は女らしくするのではなく、一人の人間として平等であるという事だと思いました。

私の家は、父も母も働いています。母は看護師で、私が赤ちゃんのころは夜勤をしていました。父は仕事で留守をしている母の代わりに、私の食事やおむつかえ、おふろなどの世話をしていました。弟が生まれた後も私達の弁当を作ったり幼稚園に送ったりしてくれました。父は市役所で会津若松市民のために働いています。父と母が協力する、そんな生活が当たり前だと思って私は育ってきました。

男性は外に仕事に行き、女性は家で家事や育児をしている家の存在を知ったのは、私が幼稚園のころでした。

私が一年生のころ母の職場に行き、忙しそうに病棟内を走り回って患者さんの世話をしている看護師さんの姿を見て、母の仕事はとても大変だと知りました。それと同時に一生けん命働く姿に感動しました。時々、いつでも家に母がいる友達をうらやましいと思うこともありますが、人のために働いている父や母をほこりに思います。

私は、お互い協力し合って仕事や家事をやりこなしている父と母がかっこいいと思います。家庭を守る主婦も立派な仕事ですが、私は父や母のように人の役に立つ仕事につきたいです。そして、仕事も家庭も大事にできる、すてきな大人になりたいです。

母がなぜ仕事をするのか。それは、家庭のためだけではなく、生がいをかけて自分の勉強をするためだと言っていました。

男も女も関係なく平等に活躍できる社会が、男女平等の社会であると思いました。

講評

現代の社会情勢において、夫婦の共働きはあたりまえの時代です。人のために仕事をし、家庭での役割分担も行っている「両親」の姿を見て、自分もそうありたいと思っている気持が表現され、頼もしいと感じました。

優秀賞

男女平等な社会へ

城西小学校　五年　　丹　隆之助

ぼくのお母さんは、今弟の子育てのために育児休かを取っています。ぼくは、三人兄弟ですが、ぼくと弟の時も、育児休かを取って子育てをしたそうです。しかし、お父さんは、一度も育児休かで休んだことはありません。なので、ぼくは、今まで男の人は育児休かを取れないのだと思っていました。また、子供を産んだ女の人だけが休みを取ることが当然だとも思っていました。

ところが、ニュースで国会議員の男の人が、育児休かを取るか問題になっていたので、お母さんに、

「男の人も育児休かを取ることができるの。」

と聞くと、

「もちろん取れるよ。法律で男の人も、女の人も同じく取ることができるけん利を持っているよ。」

と教えてくれました。ぼくは、お父さんに、

「じゃあ、なんでお父さんは育児休かを取らなかったの。」

と聞くと、

「最近になって、男の人も育児休かを取る人が多くなったけど、昔から女の人が育児をするイメージが強くて、取りづらい立場にあるのも、取らなかった理由の一つかな。」

と答えてくれました。ぼくの家では、お父さんもお母さんも同じく休むけん利を持っているのに、結局はお母さんだけが休んでいるということを知りました。せっかく持っているけん利で、育児休かを取れるのに、取りづらいから取れないというのは、男女平等ではないと思いました。

ぼくは、お父さんが休みを取って、ゆっくり子育てをしてもよいと思います。それは、ぼくが大人になって家族を持つようになったら、子供ともっとふれ合う時間があればいいなと思うからです。また、子育てのこともよく知ることができるので、家族がより理解し合い、協力できると思うのです。

お父さんが言っていたように、子育てをするのは女の人というイメージが、今も根強く残っていることが、周りのふん囲気を作っているのではないかと思います。男の人、女の人の役割を決めつけずに、周りの人が理解をし合って、休みをとりやすいふん囲気を作っていくことが大切だと考えます。そういった意識を、一人一人が持つことで、社会全体が良くなり、男女平等な社会ができると思います。

講評

「お母さんだけが育児休暇を取り子育てをした」ということに違和感を持ち、男女平等を根本的に考えた作者の心に感銘を受けました。子育ての役割は女の人という概念に捕らわれず、「自分が大人になったら、育児休暇を取り家族をより理解し、子供ともっとふれあう時間を作り、協力したい」という考えが、男女平等な社会づくりの大きな第一歩だと思います。

優秀賞

男女の数は関係ない

行仁小学校　四年　　星　祐輝

「男子は二人だけかあ。残念だな。」今年の五月、宿泊学習があった。ぼくの学年は六十二人いるけれど、男子はたった十九人。男子は女子の三分の一。何をするにも女子のほうが多くて男子は活やくできないと思っていた。女子と意見が合わなくてけんかをしたこともあった。だから、今回の宿泊学習の一はんは、六人中女子四人、男子二人。ぼくは、また男子が少ないから残念だなという気持ちで宿泊学習をスタートした。

学習の始まりは、アスレチックだった。坂道を、長いげたをはんのみんなではいてゴールまで行かなければならない。みんな自分勝手に足を動かしたら進まない。だれからというわけでもなく全員で「右、左、右、左。」と声を出した。心が一つになって足がそろったら、無事にゴールできた。

次はキャンプファイヤーだった。ぼくはレク係になった。はんの女子に男子はおもしろくてもり上げるのが上手だからと選ばれた。レク係で決めたゲームなどで、キャンプファイヤーはもり上がって最高の夜になった。

最後は、「宇宙大作戦」という問題をときながらはんで山を周る活動だった。トカゲが出て女子が「キャー、キャー。」さわいでいた。ぼくが「あっちを通ったほうがいいよ。」とアドバイスした。ふだん女子とあまり話をしない男子もつかれた女子を助けてあげていた。おとなしいと思っていた女子もまよい道を選ぶときなどしっかりしているなと思った。みんなの意外な一面を発見した。

宿泊学習では、長い時間いっしょにいたから、みんなの意外な一面を知ることができた。今まであまり話をしなかったり、けんかをしたりした女子ともなか良く協力して活動することができた。最初ははんに男子が少ないことが残念だったけれど、そんな思いはどこかにふき飛んでいた。男子が少なくても場をもり上げて活やくでき、とても楽しく気持ちの良いあせをかくことができた。

帰ってきてから、みんなで手紙を交かんした。つかれているメンバーに「大丈夫。」とか「待ってあげて。」といったことを男子からも女子からも感しゃされた内ようだった。相手を思いやることで相手がうれしく思っていることが分かって、ぼくも幸せな気持ちになった。

今までのぼくは、男子が少ないことを残念に思っていた。女子と意見が合わなくてけんかをしたこともあった。しかし、この体験を通して、男子、女子の人数は関係なく、相手を思いやり協力し合うことの大切さが分かった。協力すると大変なことも達成できた。友達のいいところ

を見つけることもできた。転校してきた子と友達になることもできた。これからも、みんなを思いやって、男子も女子もなか良く協力して、楽しい学校生活を送っていきたいと思う。

講評

男女関係なく、相手を思いやり協力し合った素晴らしい宿泊学習でしたね。文章から、あなたの素直で優しい気持ちが伝わってきました。これからも、その気持ちを大切に持ち続けてください。

優秀賞

恐そうな男子

松長小学校　六年　　渡部　星来

これは、私が三年生の時に体験した席替えの時のことです。

ある月の席替え、私はすごく苦手な男子ととなりの席になりました。どうして苦手なのかというと、その男子はいつも意見がはっきりしていて、声が大きくとても恐そうだったからです。私はどちらかというと男子は苦手意識があり、仲のよい女の子とだけ一緒にいたので、その子と話したこともほとんどありませんでした。

机をとなりに動かしたとき、その男子が

「お、今回のとなりは星来か。よろしくな。」

と大きな声で話しかけてきました。

「え。あっうん。」

と私はあいまいな返事しか返せませんでした。

その日の夜、次の日からのことが心配な私は、母に相談しました。母は、

「その男の子のよさを星来が知らないだけじゃないかな。男の子でも優しい子はたくさんいるよ。」

と言いました。その時私は、心の中で「そうかな。男の子ってみんな意地悪で恐い気がするんだけど」と思っていました。

次の日のことです。朝のマラソンタイムが終わる時、自分が日直だと気づいた私が急いで教室へもどると、事務の先生がいらっしゃって、

「今日は、担任の先生はお休みです。みんなで仲良く過ごしてくださいね。」

とおっしゃいました。

私は、

「どうしよう。日直なのにみんなをきちんとさせられるかな」

と不安でいっぱいになりました。そんな気持ちのまま、朝の会をやり一時間目は自習です。はじめは静かにしていたのに、だんだんと教室が騒がしくなってきました。私は思いきって

「静かにしてください。」

と言いました。すると数人の男子が、

「先生の代わりのつもりか。」

「なんか気取ってるよなぁ。」

と逆に文句を言ってきました。私はくやしくて言い返せもせず、泣いてしまいました。

すると、となりの男子が

「おい。静かにしろよ。先生がいないときは日直が先生と同じなんだよ。なんで星来を困らせるんだ。あやまれ。」

と言ってくれたのです。

私が恐いと思っていた、意見をはっきり言うことや声が大きいことは、その男子の素晴らしい長所だったことに気づかされました。

私は無意識のうちに、男の子だから恐いとか苦手だと思い、その子のよさを分かろうとしていなかったのです。この経験から、人と接する時は、男女ではなく、その人自身を理解し、よさを知って仲良くしていこうと心がけています。

講評

はじめは恐いと感じていた男子が、実は正義感と勇気に溢れた素敵な男子であったエピソードを通じ、男女という違いを乗り越えて相手を認め合い支えあう姿勢が、のびやかな文章表現から伝わってきました。

最優秀賞

「主夫」と「主婦」

会津学鳳中学校　二年　落合　勇斗

「主夫」という言葉をご存じだろうか。某ＣＭでも人気俳優が主夫として洗濯などの家事をこなしているので、知らない人はいないくらいだろう。ぼくの祖父母の時代は、まだ女性は専業主婦というのが当たり前で、奥さんを外で働かせるのは、男の甲斐性がないからであり、恥ずかしいことだという認識があったようだ。でも、現代はどうだろうか。共働きは当たり前で、専業主婦のお母さんの方が珍しいように思う。そればかりか「主夫」と呼ばれるお父さんも増え、出産以外の家事全般をこなし、働くお母さんを支えている人がたくさんいる。

母が休日出勤の時、ぼくは父に昼食を作る。ぼくの作った料理は好評で母のいない日はよく父にチャーハンをリクエストされる。そんなぼくが料理をするきっかけは、将来のために…という名目で始まった。今は女性が家を守る、男性は外で仕事という時代ではない。母は、家を離れて一人暮らしができるように、掃除や洗濯より、料理は慣れが必要だからと小さい頃から料理を教えてくれた。そのお陰で自然体験学習や家庭科の授業などで女子よりも積極的に調理に参加できる。実際にぼくの頭の中には料理をするのは女性という概念はない。何故ならぼくの家族は家事を分担制にしているからだ。料理や掃除、家族の身の周りのことは母が、洗濯やゴミ出し、お風呂掃除などの力仕事は父の分担である。もちろん、ぼくも食事の支度や買い物、お風呂掃除などを手伝う。お互いを支え合う姿を実際に見ていると家事における男女の差を感じることはほとんどない。家族が協力してバランスがとれた状態であれば、性別は関係ないと実感している。しかし、どんなに男女の立場や地位が平等になっていっても、その性別ならではの「らしさ」をなくさずにいたいと感じる。今は、主夫が増える一方で起業する女性も多く、世界各国で女性首相もたくさんいる。だからと言って、働く女性が男性化し、家事をする男性が女性化してしまっては、男女差別は永遠になくならない。実際にまだ、男性でなければできないこと、女性の方が向いていることはたくさん存在する。男女平等だからと意地をはらずに、それぞれが自分に誇りを持って自分らしく長所をいかして生きていくことが男女平等な社会への第一歩だと思う。

男のくせに…女のくせに…という言葉はもはや死語であり、差別用語になっている。これからは、できるのにやらない、やる努力を怠る者こそが非難される時代だ。やらない理由を男だから、女だからと言い訳をしていては、いつまでたっても平等で住みよい社会にはならない。

じっくりと自分を見つめて、できることをしっかりと行い、家庭・仕事を両立して性別にかかわりなく、自分を発揮できてこそ、本当の意味の男女平等に繋がっていくのではないだろうか。

講評

文章は全体によくまとまっていて、作者の意識も高く、料理を通しての家事分担など、家庭教育も自然で素晴らしいと思います。中学生の男子の作文として、頼もしい限りです。このような姿勢が基礎になって、社会が変わっていくのだろうと思います。

優秀賞

男女平等とは？

北会津中学校　二年　樋田　遥

「男女平等」日本では戦後憲法で明記されました。これは雇用の平等や、社会的人間的な部分を意味していると思いますが、今の社会でとらえられる男女平等について考えてみました。

男女は、確かに人間的価値において平等です。しかし、今私たちが耳にする男女平等という言葉は少し違和感があります。戦後の日本では女性はとても存在を軽んじられていたように思うので、男性と同じように存在価値があると認められたことは本当に良かったと思いますが、現代の日本では、平等であることに対しての主張が強すぎると感じています。人間的価値が同じならば、人間的能力が同じとは限りません。男性は男性らしく、女性は女性らしく生きることができ、認められ、守られる社会であることが大切だと思います。

男性と女性では生まれつきに脳と体の構造がそもそも違います。だからこそ物の考え方に差があり、身体的な能力が違います。これは平等にすることが絶対にできません。男性は子供を産むことはできないし、お乳も出ないので赤ちゃんを育てることはできません。女性は男性よりも体が小さく、どんなにきたえても男性のような力をつけることはできません。その結果、家庭の中でも社会でも仕事の内容が変わってきました。今は男性の育児参加や家事の分担、給料の差などが取り上げられることが多くありますが、私は、生まれつきの能力がそもそも違うのだから、全てを平等にするのは無理だと思います。男女の特性や個性、能力、体力を無視して、同じように動くのは無理だし、それは平等ではなく虐待にも当たると思います。お互いに尊敬やいたわりがなくてはなりません。都合のいいときばかり「男女平等」をふりかざして、男性に家事を手伝え、子育てに参加しろ、同じ時間働いているから同額の給料を出せというのには違和感がありますし、女性に男性の倍も時間がかかるような重労働をさせて、結果は同じだと評価するのに賛成しません。

男女平等という言葉だけを切りとって、何でもかんでも同じととらえず、それぞれの個性を認め合い、協力し合って足りない部分を補い合えることこそが平等ではないでしょうか。社会の中でも、性別に関係することなく出来ることは、同じように参加すればいいと思うし、男女関係なく個性で特性は違うので、それもまた認め合いながら、皆が自分の主張だけをせずに生きる社会が本当の平等だと思います。なので私は、自分が出来ることを自分なりに参加していきたいです。

私は母から「女の子らしく」とよく言われますが、全

く違和感はありません。細やかな気配りができる女性になりたいと思うし、母がしてくれたように子育てに励んでみたいとも思っています。私は母からもらったこの性を、楽しく生きていきたいです。

講評

大人もハッとさせられる「男女平等」の誤解が率直に表現されています。「女性や男性、それぞれの良さや違いを認め、協力し合う社会」は本当に理想ですね。そんな社会を担う素敵な女性になることと期待します。

発　行　　平成２９年１月

会津若松市企画政策部 企画調整課　協働・男女参画室

〒965-8601　会津若松市東栄町3番46号
TEL.0242-39-1405　FAX.0242-39-1400
http://www.city.aizuwakamatsu.fukushima.jp/
この作品集は市のホームページでも掲載しています